

編輯室の外

露露既に降り木葉落つる十一月とはなりぬ冷氣漸く到れる北支の山野に不眠不休不食不飲千辛萬苦を忍びつゝ今日肉塊と不分明白骨となるをも念頭におかず、ひらぶりに皇國の爲めに戦ひぬいて居る將兵の身の上を思ふときに唯感激あるのみである。敵を殲滅すとの戦勝の報に接しては涙をながし、無言の勇士凱旋すと聞きては思はず眼尻を赤くしつゝ漸く本號の編輯を了へたが感謝に堪へないことは近時最も有益なる投稿の豊かなることである。玉稿を惠與せられたる諸彦に對し謹んで厚禮を表する次第である。

戦局は愈々擴大し我軍の貴き犠牲忠勇は百戰百勝既に全支を呑むの氣概あるを見るが歐米諸國の條理を無視したるが如き動きも漸くはげしからんとするのである。我國未曾有の難局とは今日である。従つて國民は位地の高下や資力の多寡や職業の尊卑や収入の多少や自動車の有無は問題でなく、全く一如となつて奉公せねばならぬ。自己の意に滿ざることありとてあながち他を排斥するが如きことは許されざる所である。一言で謂はば毫末も摩擦相剋があつてはならぬ、陸海軍が立體的に協力して勝を制しつゝあるが如く政治も經濟も立體的に結合し不平不滿の爲めに現在の機構體制を破壊

してはならぬ、國民精神總動員運動をして大なる効果を收めしめよ、最近組織せられた内閣參議をして内閣の最高諮問機關たるの一致の實績を舉げしめよ。公書院をして看板の書報に終らしめよ。次に來るものに十分な經綸を準備せしめよ。感情も行動りや功名心からの裁判でなく、國民に遵法の精神を涵養せしむると共に疑に勇に斷に怯ならしめよ。之れ遵法の精神を涵養せしむる上の大なる關心事である。

日本の顔が揃ふた、即ち宇垣一成氏、荒木貞夫氏、末次信正氏、安保清種氏、町田忠治氏、前田米藏氏、秋田清氏、松岡洋右氏、郷誠之助氏、池田成彬氏等我國民中の一流の顔である。此顔振れで近衛内閣に協力し、敢て外交に文句を並べず、策戰の如何を咎めず、經濟統制に工業總動員に異存を立てず唯一に來るべき國運の經綸策確立の基礎工作に努力せられんことを切望せざるを得ない。

伊國首相ムッソリーニは「老母の獨り言や僧正の御祈禱等は我々に取つては正に噴飯物であり聲に堪へぬものだ」と言はれたるやに聞くが英國ニュー・クロニクル新聞社主催の反日大會にカンタベリ大僧正司會者となつたことは何んかと云ふとも英國民意思の反映である。又之に對してローマ法王が世界のカトリック教徒に「日本の直接の關心は共產黨勢力の亞細亞浸潤驅逐に

外ならない、當然日本に協力すべきだ」と呼びかけた聲は正義に基いての公平な叫びであつて佛政府に對する反抗の意もあるであるが其の日本を正當に理解する點に於て大なる影響があるであらう。北支戰線の進出に比して上海戰線の遲緩なるを憂ふるものがある。併し北支と上海とは戰術上各特異性があると聞く而かも蔣介石が外交經濟上最大重要地域なりとし、難攻不落の堅壘を築き縱横のクリークを利用し壘壕を深くしトーチカを構へあらゆる近代理想的防備設備を完備する。我軍將兵の惡戰苦闘は察すべきである。只自己の無知無識を顧みず妄りに憂ふるを止めよと謂はんかな。(一〇、二三洗)

定價一部 五十錢
一ケ年分 金六圓

發行所 東京市麴町區外櫻田町一番地内務省内
社 團 道 路 改 良 會
法 人

電話銀座(57)四二七
東京市世田ヶ谷區代田壺丁目七八〇番

發行所 東京市小石川區歌訪町五六
小 島 常 馨 印 刷 所

編輯者 奈 良 直 一
印刷者 奈 良 直 一